

亜急性硬化性全脳炎の疫学調査

研究分担者: 杏林大学医学部小児科 岡 明

亜急性硬化性全脳炎 全国サーベイランス調査

目的: 本疾患の新規患者の発生状況の把握
本疾患の現状での臨床経過
治療法の選択との関連
追跡調査

サーベイランス2012
新規患者の把握
全国主要医療機関への調査
(一次調査 患者数の把握
二次調査 実態について調査票)
患者会を通じてご協力をお願いします

•先行する麻疹感染に関する情報(有無、年齢、予防接種状況、罹患時の免疫状態、その時点の居住地)
•発症に関する情報(発症時期、診断時年齢)
•治療に関する情報(これまでの治療、現在の治療)
•現在の状況
•サーベイランス2007のその後の臨床経過およびその間の治療法

本疾患の我が国における新規発生患者の把握
本疾患の臨床経過
治療による効果の評価

本疾患克服に向けた
基礎的な資料の作成

研究施設 杏林大学医学部、福島県立医科大学小児科、岡山大学大学院発達神経病態学、熊本大学医学部発達小児科、静岡県立こども病院神経科、大阪府立母子保健総合医療センター小児神経科、石巻赤十字病院

解説

1. 我が国は依然として先進国で唯一の麻疹流行国であり、亜急性硬化性全脳炎の発生のリスクを抱えている。
2. 平成24年に本疾患のサーベイランス調査を行い、患者総数の把握、新規発生患者数の把握、現在の患者の臨床経過(自然史)、選択された治療による効果の評価を行う。